

教科(科目)	福祉(こころとからだの理解)	実施学年 (履修規定)	第3学年 必修
単位数	福祉科 3単位	教科書 副教材	最新介護福祉全書 9 発達と老化の理解 最新介護福祉全書11 障害の理解 介護キーワードマップ 3
科目の目標	介護を行うために必要な医学と保健に関する知識を習得させ、健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解させる。		
目標達成に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の対象である人間を正しくとらえるため、起こりうる健康上の問題について、総合的な知識を理解させる。</li> <li>・人間を取り巻く環境にも視野を広げ、社会的な関わりを在宅医療と関連させながら理解をさせる。</li> <li>・科学的根拠に基づいた介護を行うことができるようこころとからだのしくみ全般について理解させる。</li> </ul>		

◇ 進度

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
4	難病	難病についての基礎知識  潰瘍性大腸炎 パーキンソン病関連疾患 全身性エリテマトーデス 筋萎縮性側索硬化症 サルコイドーシス ベーチェット病	授業観察 プリント確認 ファイル確認 確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に臨むことができている。</li> <li>・「難病対策要綱」に示された特定疾患(難病)の概念を把握している。</li> <li>・対象疾患と診断された場合の行政的補助について理解している。</li> <li>・臨床的特徴、症状及び経過治療、療養上の世話について、各疾患の特徴を理解し述べる事ができている。</li> </ul>
5		中間考査 (内容把握)		
6	難病	脊髄小脳変性症  介護実習	授業観察 プリント確認 介護実習状況と介護過程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項が介護実習に生かされ、利用者の状態把握や介護に生かされている。</li> </ul>
7		期末考査 (内容把握)		
8	夏季休業	課題(人体の構造と機能、系統別疾患等の既習知識に関するまとめと問題)	国家試験問題(過去問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の課題テストによって確認する。</li> </ul>
9	在宅医療の現状 在宅医療の現状 医療システムの現状 保健医療の現状	在宅医療の実際 在宅医療における連携 救急医療疾病と受療状況 有訴者・通院者・日常生活影響者・受療状況 在院期間 人口静態と人口動態 地域保健対策の動向	授業観察 プリント等確認 課題プリントにより各内容のまとめ ファイル確認 確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の演習、訪問介護実習との関連において理解できている。</li> <li>・医療システムの現状と統計を把握できている。</li> <li>・各統計に基づいた現状を理解することができている。</li> <li>・保健医療と福祉の連携の重要性について理解できている。</li> </ul>
10	保健医療対策の現状 医事法制と医療関係機関の連携	保健・医療・福祉における各種政策・健康日本21 医事法制の概要・基本的な医事法規	プリント確認 ファイル確認 確認テスト グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各統計に基づいた現状を理解することができている。</li> <li>・保健医療と福祉の連携の重要性について理解することができている。</li> </ul>
		中間考査 (内容把握)		
	精神障害	精神障害者の特徴 精神障害の病状と障害の程度 精神障害の種類 統合失調症 気分障害  障害の日常生活への影響 精神障害者の福祉	プリント確認 ファイル確認 確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害の種類と原因と特性について理解し法律による定義を理解している。</li> <li>・精神障害者の介護や福祉について理解している。</li> </ul>

月	単元	学習内容・項目・活動等	評価方法・項目等	評価の規準等
1 1	高次脳機能障害	高次脳機能障害の原因と症状  認知系に障害を認める人の理解  行為系に障害を認める人の理解	授業観察 プリント確認 ファイル確認 確認テスト	・高次脳機能障害の原因と症状を理解できる。 ・認知系の高次脳機能障害の特徴と生活面への影響を理解できる。 ・行為系の高次脳機能障害の特徴と生活面への影響を理解できる。 ・高次脳機能障害の人の観察のポイントとアセスメントの視点が理解でき実践できる。
1 2	視覚障害 聴覚障害 言葉に障害を認める人	感覚器に障害のある人の特徴について復習	確認テスト	・各疾患を人体の構造と機能の関連において理解できている。関連科目との結びつけができています。
期末考査 ( ころとからだの理解 全般の知識確認)				
1	ころとからだのしくみ 認知症	・ころとからだの理解 全般の知識確認	確認テスト	・各疾患を人体の構造と機能の関連において理解できている。 ・認知症について理解し国家試験問題に対応できる。 ・問題の 70 % を把握できている。
学年末考査 ( 国家試験をにらんだ医学系の知識確認)				

評価の観点及び趣旨

①関心・意欲・態度

介護を行うために必要な医学と保健について関心を持ち、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解しようと意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。

②思考・判断

人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して人間の健康状態を適切に判断する能力を身に付けている。

③技能・表現

介護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を基盤として、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解を深め、その成果を的確に表現する。

④知識・理解

介護を行うために必要な医学と保健に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、人間の健康と疾病及びこれらと環境との関係について理解している。

「ころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

- |            |       |         |       |
|------------|-------|---------|-------|
| ① 関心・意欲・態度 | 20%程度 | ② 思考・判断 | 25%程度 |
| ③ 技能・表現    | 20%程度 | ④ 知識・理解 | 35%程度 |